となん歴民（れきみん）だより

vol.74

令和５年９月 30 日発行

盛岡市都南歴史民俗資料館

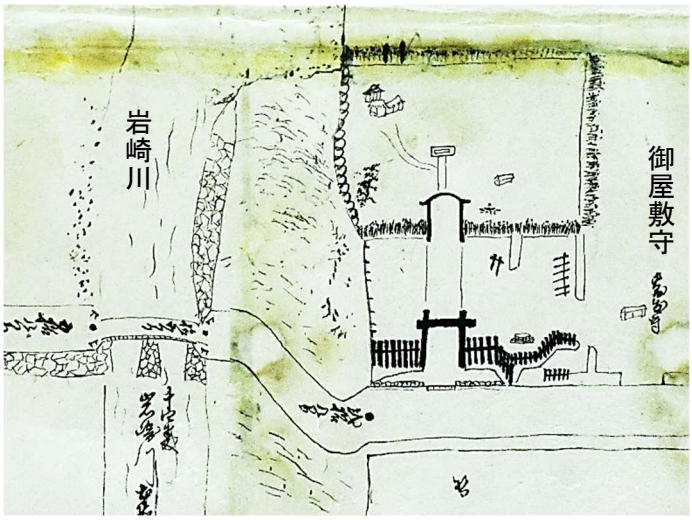
■企画展から ～展示替えのお知らせ～

当館では、令和５年 11 月 19 日（日）まで企画展「都南の街道と史跡・文化財」を開催しています。展示資料のうち「志和稲荷街道詳細図（しわいなりかいどうしょうさいず）」と「古人先立控帳（こじんさきだちひかえちょう）」について、10 月上旬に展示箇所の変更を予定しています。

「志和稲荷街道詳細図」は、天保５年（1834）から翌年にかけて実施された普請（ふしん）工事のための絵図です。目印となる橋や建物、その間の距離、掃除場所（街道の清掃・補修を行う各村の割り当て区間）が記されている実用的な絵図で、全長約 16 メートルあります。今回は、矢巾町と紫波町の境目付近から、終着点である志和稲荷神社までの部分を展示します。

「古人先立控帳」は、巡見使（幕府から民情視察のため派遣された監察官）の質問に答えられるよう作成された応答要領で、この資料は天保９年（1838）のものです。奥州街道を案内する想定で書かれているため、当時の街道から見える都南地域の様子がわかります。今回は、見前付近の部分を展示します。

ぜひご覧ください。



志和稲荷街道詳細図より 岩崎御用屋敷跡 当館蔵

藩主一行が参詣途中に立ち寄った休憩所。現在の煙山ダム付近にあった。左図ではすぐ脇を岩崎川が流れているが、現在は流路が変わっている。「花の岩崎お小休み」と里謡にうたわれる名所だった。

※この箇所の展示期間は 10 月上旬までです。

■小学校・幼稚園のみなさんが見学に来ました

見前南小学校のみなさん

蓑（みの）を着てみました

氷冷蔵庫の中をじっくり観察しています

秋になると、都南歴史民俗資料館には社会科見学の子どもたちがやって来ます。

今年は９月に手代森小学校、見前南小学校の２校、青葉幼稚園と二葉幼稚園のみなさんが来館し、目を輝かせて昔のくらしを学んでいました。昔の道具は、我々大人にとっては懐かしく、子どもたちの目には新鮮に映るようです。

となんの民話さんぽ ２　大沼（おおぬま）カッパ

都南の民話と、
民話にまつわる史跡
などをご紹介します

盛岡市三本柳に大沼があったときの話です。大沼の主は女のカッパで、その夫は稗貫（ひえぬき）（現花巻市）の黒沼に住んでいました。

ある町人が大沼のそばを通りかかったとき、現れたカッパに「どうか手紙を黒沼へ届けてくだされ、決して中を見るでないぞ」と頼まれました。町人は引き受け、街道を歩いて南へ向かいました。郡山（こおりやま）（現紫波町日詰）の茶屋で休憩したとき、なじみの亭主（ていしゅ）にあらいざらい話すと、その書状を見せるよう言います。すぐ懐（ふところ）から出して見せると、中には「この者の尻は黒いから、捕えて食うとお前の尻の黒いのが必ずなおる」と書かれていました。おどろいた亭主と町人は相談し、「この者に十両の金を渡してくれ」と手紙を書きかえました。

町人は書きかえた手紙を持って黒沼に行き、沼の主におそるおそる差し出しました。大きく立派な男の姿をした主はジロジロ見ていましたが「ちょっと待っていろ」と言って沼の中から十両のお金を持ってきました。町人はほっとして受け取り、大急ぎで郡山の茶屋まで戻り、亭主と二人で山分けにしました。

参考文献：都南村歴史民俗資料館『都南の民話』1985 年

民話ゆかりの史跡　大沼

かつて三本柳にあった、その名の通り大きな沼。藩政期は農業用水池のほか、献上する鳥を確保する溜池（ためいけ）として利用された。

昭和 18 年(1943)頃、戦時中の食糧難のため埋め立てられ耕作地となり姿を消した。現在は団地になっている。

大沼
盛岡市三本柳
12 地割地内
岩手県交通バス停
「大沼」より
東に徒歩 30 秒

三本柳村分間大絵図　都南歴史民俗資料館蔵

見て　さわって　動かして　深まる学習

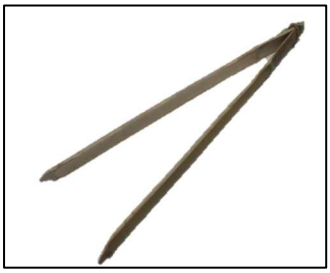
～昔のくらしを知る　盛岡市都南歴史民俗資料館の貴重な収蔵品～

第２回　からはし・千歯こき・足踏み脱穀機

教育出版株式会社の教科書『小学社会３』（2023）には、千歯こきが掲載されています。

千歯こきは、稲や麦などの穂をこく脱穀用具です。鉄片を櫛の歯のように並べ、稲穂をひっかけて、籾（もみ）をしごき落とします。江戸時代の元禄年間（1688～1704）に考案されました。大正時代の頃、千歯こきの生産は頂点に達し、鳥取県の倉吉（くらよし）では１年間に 10 万挺（てい）も生産されました。千歯こきは、日本海を船で秋田方面に運び、山を越えて当地方に普及したと言われています。

当館では、左から順に、稲の１本ずつから籾をとる「からはし」、「千歯こき」、「足踏み脱穀機」を展示しています。（「手回し脱穀機」もあります。）間近で見る千歯扱き、手回し・足踏み脱穀機の精巧な製造技術は目を見張るものがあります。脱穀の進化の過程から、当時の人々の英知と暮らしぶりを学習することできます。



からはし
（竹製）

千歯こき

足踏み脱穀機

となん歴民だより　vol.74
令和５年９月 30 日
盛岡市都南歴史民俗資料館　発行

岩手県盛岡市湯沢１－１-38（**都南つどいの森**を目印にお越しください）
TEL/FAX 019-638-7228
時間 ９：00～16：00　**休館日** 月曜日(祝休日の場合は翌平日)　**入館料** 無料